

TEL 233 340 000
 FAX 224 313 684
 Email Jschool @volny.cz

VLTAVA

学校教育目標

「自ら学び 共に学ぶ 豊かな心と国際性あふれる たくましい児童生徒の育成」

目指す子ども像

「かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子」

3つのやさしさ

校長 齊藤 仁

(10月6日全校朝礼でのお話)

七夕の全校集会で、プラハ日本人学校が目指している「かしこい子、やさしい子、たくましい子、世界で生きる子」についてお話をしました。特に「かしこい子」のお話をしました。覚えていますか。「かしこい」というのは、常に努力して、うまくいなくても、あきらめない人、他人の話をしっかりと聞くことができる人、いつもみんなと力を合わせられる人の話でした。

今日は、「やさしい子」はどんなことを言うのか考えてみましょう。どんなことをすればやさしい人になれるのでしょうか。

先生が考える「やさしい子」は3つあります。「人を傷つけないこと」「近くのお友達や知っている人を助けること」「知らない他人や社会のために働くこと」です。この3つは、小さなやさしさから大きなやさしさって覚えてください。

最初の小さなやさしさは、まず他人を傷つけないことです。人を傷つけるのは、暴力、いたずら、からかいやひやかしなどの言葉、そしていじめです。他人を傷つけてしまう人は、他人の痛みが自分の痛みとして感じられなかったり、想像できなかったりするからです。人の心の痛みがわかる人は、人を傷つけません。人を傷つける人は、いつも自分のことしか考えません。「どうして自分のことがわかってくれないの」「自分のやりたいことをわかってくれないの」っていう甘えの気持ちでいっぱいだからです。「僕はどうしてあの人の気持ちをわかってあげられないんだろう」「どうしていつも自分のことしか考えないんだろう」って考えると、人はやさしくなると思います。これはやさしさの第一歩、小さなやさしさです。

2つ目のやさしさは、お友達や身近な人が喜んでくれることをすることです。これは、人の喜びとかうれしさが自分のものとして感じられることです。お母さん、お父さんはこのやさしさでいっぱいですね。元気な挨拶をすると、お互いに笑顔が浮かびます。お友達を助けてあげたり、励ま

したり、ほめたりしたときに、喜んでくれることが自分の喜びになります。だから「ありがとう」って自分のうれしさを相手に伝えることも大事ですね。これはやさしさの第二歩です。

そして、一番大きなやさしさは、「身近じゃない人、知らない人のために何かをする」ことです。お父さんたちの仕事にもこのやさしさがあります。たとえば、仕事で車を作っている人が、一生懸命に作った車はきれいで故障がありません。車を作る人は、その車に乗った人が喜んでくれるように作るんです。この喜びは、お互いに伝え合うことはありません。けれども、社会にはそんな「大きなやさしさ」があるのです。先週の秋祭りもそうですね。日本を知りたいチェコの人喜んでもらえることがうれしいから、お父さんやお母さん、会社の人、先生たちも準備しました。遠くの隣人を助ける、ボランティアをやる、平等で平和な世界を作る。これはやさしさの最高の位ですね。

「やさしさ」をかん違いしないでくださいね。例えば、仲よしだからいい加減なことを許したり、甘えあったり、楽なことをしてなれ合いになったりするのには、「やさしさ」ではありません。本物のやさしさで、これからも学校をいっぱいにしていきましょう！

ご協力ありがとうございました

昨日の緊急下校訓練を、無事終えることができました。ご協力ありがとうございました。バン格拉デシュの事件もあり、在外にいる私たちは常に安全について意識を高めておく必要があると再認識しております。また、緊急時には、学校からの避難場所として近くの*****校を確保することができましたので、ご連絡いたします。

*****校

住所 *****